

積雪深データ

2007/2008 年冬期の日本各地における積雪深の変化

63 巻から始めたこのコーナーでは、冬期間の積雪状況を振り返るため、代表的な地点 (図 1) における積雪深の変化図ならびに最大積雪深とその起日を示します (図 2)。

2007/2008 年冬期は、冬平均気温 (12-2 月) をみると平年並でしたが、前半は変動が大きいものの気温が高い日が多く、後半は平年並か平年を下回る日が続きました。3 月にはいると北日本と東日本でかなり気温があがり、1946 年以降 3 月の平均気温としては第 2 位の高い記録となりました。一方降水量は、強い冬型が続くことが少なかった影響で、冬期を通じて 東日本の日本海側と北日本で少なく、特に北日本の日本海側では、3 月の降水量が 1946 年以降最も少ない記録となりました (気象庁発表)。

各地点の最大積雪深 (9 時積雪深の最大値) は、札幌 133cm (平年値 92cm, 1982-2000)、新庄 115cm (128cm, 1974-2000 年)、長岡 115cm (142cm, 1971-2000) および上越 55cm (118cm, 1975-2000) となり、札幌を除いた 3 地点で平年よりも少ない値となりました。積雪の初日と終日は、札幌は 11 月 20 日～3 月 31 日 (注: 周辺圃場の消雪日は 3/27)。

新庄は 11 月 19 日～3 月 30 日、長岡は 11 月 22 日～3 月 19 日、上越は 12 月 5 日～3 月 12 日でした。ただし、これらの期間には途中消雪した日を含んでいます。札幌以外の 3 地点では最大積雪深が平年よりも小さかったにもかかわらず、1 月上旬から 2 月下旬にかけて寒冷な気候が続いたために、その期間積雪深の大きな減少は見られませんでした。しかし 3 月に入ってから気温の高い時期が続いたためにすべての地点で急激に融雪が進みました。

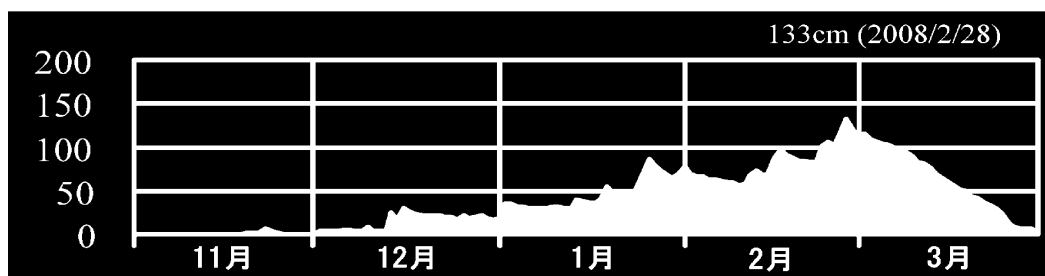
データを提供していただいた機関、および担当者は、札幌: (独) 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター (広田)、新庄: (独) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所 (阿部)、長岡: (独) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター (山口)、上越: (独) 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター (小南) です。測定方法などの詳細は各機関にお問い合わせください。

(このコーナーは、年 1 回、積雪期が終わった頃に掲載します。)

山口 悟, 小南靖弘, 広田知良, 阿部 修
(2008 年 5 月 26 日受付)

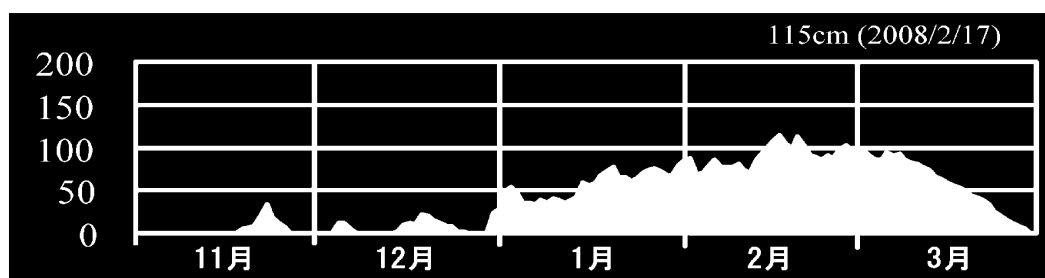


図 1 観測地点.



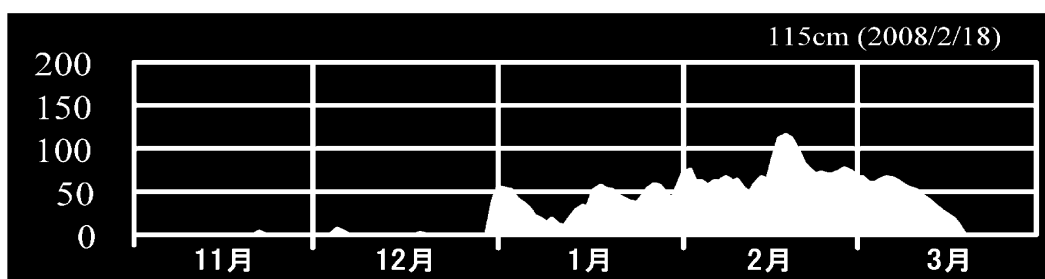
札幌市

(農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)



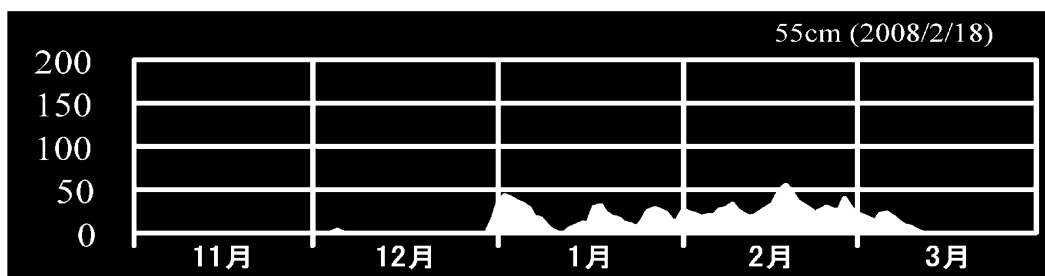
新庄市

(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)



長岡市

(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)



上越市

(農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター)

図 2 2007/2008 年冬期の札幌市, 新庄市, 長岡市および上越市における積雪深 (9 時) 変化 (単位: cm)
各グラフの右上には最大値とその起日を示す。